

淀川水系流域委員会 第31回猪名川部会 結果概要

開催日時：2006年5月20日（土）16:00～19:00

場 所：中央会館 ホール

参加者数：委員8名、河川管理者（指定席）8名

一般傍聴者（マスコミ含む）31名

※本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。

1. 決定事項
2. 報告の概要
3. 審議の概要：河川整備計画基礎案に係る事業進捗状況の点検について
 - 計画-1-1 河川レンジャー
 - 環境-2-15～16 横断方向の河川形状の修復の検討（下加茂地区、下河原地区）
 - 環境-3-8～9 縦断方向の河川形状の修復の実施
 - 環境-17-11～13 生息・生育環境の保全と再生の検討（高田、東園田、北河原地区）
 - 環境-17-19 外来種対策の推進
 - 治水-1-1-4 水害に強い地域づくり協議会
 - 治水-3-5 堤防補強（猪名川）
 - 治水-7-4 川西池田地区の築堤を実施
 - 利用-2-1 河川保全利用委員会
 - その他
4. 一般傍聴者からの意見聴取

1. 決定事項：特になし

2. 報告の概要

庶務より報告資料1～報告資料3を用いて前回委員会以降の経過報告と「一般からの意見提出および傍聴者からの意見聴取の方法」について説明がなされた。

3. 審議の概要

河川整備計画基礎案に係る事業進捗状況の点検について

河川管理者より審議資料1-1「事業進捗状況報告についての猪名川部会抜粋項目一覧表」、審議資料1-2「事業進捗状況報告項目についての整備内容シート」を用いて説明がなされた後、委員との意見交換がなされた。主な意見は以下の通り。

○計画-1-1 河川レンジャー

- ・猪名川流域での河川レンジャーの活動拠点はどうなっているのか。
 - ←現時点では猪名川には活動拠点が無い。河川レンジャー会議は猪名川河川事務所で行い、試行活動が続いている（河川管理者）。
 - ←活動拠点が無いのは寂しい。ぜひ検討して欲しい。
- ・河川レンジャーを組織していく上で一番重要なのは「人材」だと思う。河川レンジャー候補は

いるのか。

- ←住民団体や地域で活動されているグループがたくさんある。河川レンジャー候補委員として3名の方に入って頂いているが、このうち2名は住民団体に属されている。候補になる方は大勢いると考えている（河川管理者）。
- ・猪名川の河川レンジャーの特色はどこにあるのか。猪名川に残された自然環境は残り少ないため、自然環境の保全を考えた活動をお願いしたい。
 - ←猪名川はゴミが目立つため、試行活動としては、清掃活動が比較的多い。今後は、迷惑行為の改善やハザードマップの周知といった部分に関して、河川管理者と住民の方々の間に立ってうまくコーディネートして頂ければと思っている（河川管理者）。
- ・各河川で河川レンジャーの試行活動が進められているが、猪名川は遅れている。これを逆手にとって、他の事例を見ながら、より良いものを作って欲しい。特に、他流域の河川レンジャーとの交流を定期的に進めて欲しい。清掃活動は河川レンジャーの本来の役割とは違うだろう。清掃活動が前面に出てこないような活動をお願いしたい。
- ・河川レンジャーの研修制度は検討されているのか。
 - ←本格的な運営になっていけば、研修も必要になってくると考えている（河川管理者）。
- ・報酬等について決まってきたるのであれば、整備内容シートに書き込んでもらった方がよい。
 - ←運営要領の案はあるが、正式には決定していない。今後、試行活動を行いながら意見を頂いていく。現状では、河川レンジャー候補委員には委員会出席の謝金や交通費を支払っているが、レンジャーとしての報酬等の制度はまだ決まっていない（河川管理者）。
 - ←「河川レンジャーは無償ではなく、報酬や身分が保障されて初めて成り立つ」という委員意見も出されている。正式な河川レンジャー制度に向けて、(案)でもよいので、もう少し内容に分かる記載をお願いしたい。
 - ←制度として確立するためには、河川レンジャーの権限や責任も問題になってくる。はっきりさせておいた方がよい。
- ・河川レンジャーの事業費は決まっているのか。
 - ←予算措置まではできていない。河川レンジャーの身分保証等まで含めて整理しなければならないが、現状ではそこまで進んでいない（河川管理者）。

○環境 2-15~16 横断方向の河川形状の修復の検討（下加茂地区、下河原地区）

- ・下河原地区の人工ワンドは、造園的な設計が強すぎる。箕面川の野草見本園は洪水で流されてしまった。草の管理はできないので、物理環境に応じた植生を期待しないといけない。河床を切り下げて冠水帯にするといった発想でおおらかな地形を作って欲しい。
 - ←ワンドのミニチュアをつくっているだけで、ワンドの機能が実現できていない。3~4つのワンドを展開して欲しい。
- ・子どもたちの親水環境も大切だが、生き物が育まれる生物環境も重要だ。せせらぎ水路もよいとは思いますが、全体としての環境が考えられていない。大きな構想（復元再生）の中の一部を人が利用するといった位置付けが必要だ。当初のねらいがきちんと実現できているか、モニタリングによって確認できているのか。
 - ←生物調査を行い、環境学習としても利用しているが、学術的な評価まではできていない。今後、モニタリングをし、その結果をふまえて検討していきたい（河川管理者）。
 - ←子どもが安全に水遊びをしているだけでそれ以上のものではない。せせらぎ水路をこの地域の生物にとっても良い環境にして欲しい。「横断方向の河川形状の修復」を目

標としている事業にしては限定的すぎる。

- ・下河原地区と北河原地区は、猪名川では広い河川敷を持つ場所なので、有効に使うような取り組みをお願いしたい。せせらぎ水路だけではあまりにもささやかすぎる。河床を切り下げて冠水帯にすれば、もっと豊かな環境になっていく。外来種アレチウリは水に浸からないかぎり除去できない。

←下河原地区には、ワンドを複数作る余裕はないのではないかな。

←堰の左岸側に大量の土砂の仮置場がある。ハリエンジュの林もあったが伐木した。この付近の横断方向を切り下げて平坦化し、みお筋を広げる方向でもよいのではないかな。

○環境-3-8~9 縦断方向の河川形状の修復の実施

- ・大井井堰は落差が少ないので少し改善すれば魚が遡上できるようになるのではないかな。落差の大きい堰（池田床固等）はいずれ改造してもらう必要がある。余野川の合流点は時々瀬切れが発生するが、無理をして水を補給する必要はない。
- ・農業用水と上水道の堰がある。農業用水の可動堰であれば、堰が立っている期間は90日程度ですむ。堰の構造自身の検討もお願いしたい。
- ・猪名川は海からの連続性が保たれている。魚道が魚の遡上をどれだけ阻害しているのかを具体的に調査・検討をした上で、堰や魚道の検討をするべきだ。天然のアユが遡上できるような川になればよいと思っている。魚道のWGを組織して実態を把握していかないといけない。

←水辺の国勢調査をしてはいるが、堰が魚類の遡上にどのような影響を与えているかまでは十分な調査ができていない。調査した上で対策の必要性について検討していきたい（河川管理者）。

←そもそも魚道がない川がよい。「よい魚道を造る」のではなく、魚道の要らない川にして欲しい。

- ・上津島床固、大井井堰、三ヶ井井堰、池田床固は、魚が上れない。P17 下図右側の久代北台井堰は斜め堰だと思うが、かなり傷んでいるので魚があがれないことはないだろう。ただ、改善の必要はある。

○環境-17-11~13 生息・生育環境の保全と再生の検討（高田地区、東園田地区、北河原地区）

- ・高田地区のヨシ原を良好に維持するには寄州の地盤高を切り下げるべきかもしれない。この地域は猪名川の疎通能力をどの程度阻害しているのか。

←総合治水対策の目標流量は、現在の状況で流せる。今後、安全率を上げていくためには、かなりの掘削が必要になってくる。切り下げによって環境が良くなり、さらに安全度も高まるやり方があれば、そういう形で進めていきたい（河川管理者）。

- ・猪名川の疎通能力を高めるために、平水位以上の中州の掘削が計画されているが、今回の整備内容シートには含まれていないのか。

←余野川ダムの代替案として河道掘削と中州掘削案を示したが、この地域は掘削の対象から外れている。ただ、環境と治水安全度を高めることができるということであれば、従来の案にこだわることなく検討していきたい。自然環境委員会からご意見を頂き、検討していきたい。今回の整備内容シートの進捗点検は基礎案の中で示された事業を対象としているため、余野川ダムの代替案は含まれていない。今後、整備計画をまとめていく中で新たな項目を立てることになっていくのではないかなと思っている（河川管理者）。

- ・藻川と猪名川の流量配分はどうなっているのか。審議資料 1-2 P29 の断面形状を見る限り、かなり偏って流れるだろう。検討して欲しい。

←計画よりも藻川に流れやすい状況になっている。現段階では整備内容シートには含まれていないが、今後、検討していきたい（河川管理者）。

- ・環境に関する項目は自然環境委員会で諮られているが、相当な項目数になっているのではないか。自然環境委員会は頻繁に開催されているのか。

←3月末にも委員会を開催したため、合計3回開催した。昨年度の自然環境委員会では、余野川ダムの代替案である河道掘削の影響等について議論したほか、河川管理者の準備も不十分だったため、縦断・横断方向の河川形状の修復については十分には議論できていない。今年度は取り組んでいきたい（河川管理者）。

○環境-17-19 外来種対策の推進

- ・外来種の取り組みはアレチウリ対策が中心のようだが、ハリエンジュ、ニセアカシア、トウネズミモチ等への取り組みはどうなっているのか。

←倒木対策と同時に付近一帯の群生を伐採した。その後、治水上の影響がないため、今後の対策については方針が立っていない。外来種対策として方針を検討していきたい（河川管理者）。

←ハリエンジュは将来のためにも徹底して伐木すべきだ。

○治水-1-1-4 水害に強い地域づくり協議会

- ・猪名川ではハザードマップが先駆的に作られた。しかし、等高線毎に色を塗り分けているだけで、実際にマップを見た市民は迷ってしまう。水害の時にどうすればよいか分かるように作り方を工夫して欲しい。

←最近のハザードマップには「どこが破堤したらどうなるか」という浸水情報が入っている。また、避難所の場所、避難所が浸水するかどうか、何階付近まで浸水するかといった情報も書かれている（河川管理者）。

- ・内水排除ポンプの運転調整について、わかることがあれば教えて頂きたい。

←排水機場の運転調整とは、大きな洪水が来て、河川の水位が高くなっている時に、ポンプによる内水排水をどう管理するかということだ。破堤を回避するためには、内水排水ポンプを停止するという苦渋の選択をしなければならない。あらかじめどういう状態でポンプを停止するのかを決めておこうということだ（河川管理者）。

←内水排水ポンプの操作ルールを住民と共有できるのか。その辺りまで含めて考えておかないといけない。

←住民への周知についても専門部会で議論していく。まずは、自治体との調整を進めていきたい（河川管理者）。

○治水-3-5 堤防補強（猪名川）

- ・河川管理者はいまだに越水対策をとろうとしない。堤防補強のために大規模な工事を行っているが、あれほどの工事をするなら堤防の芯を入れ替えた方がよいと思う。特に藻川と猪名川に囲まれた地域は閉鎖性氾濫域なので絶対に破堤してはいけない地域だ。こういった地域では住民の不安に対応するためにも越水対策を考えていくべきだ。

- ・現在では、ドレーン工が当たり前になっているが、10年前からすれば進歩だと思う。他の先駆的な取り組みもお願いしたい。

- ・大阪府が安威川ダムを計画しているが、安威川と猪名川で整備計画の整合性が必要になってくる。調整を進めて欲しい。

○治水-7-4 川西池田地区の築堤を実施

- ・このまま事業を進めてもらえばよい。ただ、自然環境的な面からみれば、絹延橋上流の無堤区間の護岸に問題がある。コンクリートで固められ、植生が全く育たない。猪名川下流域では環境に対する配慮がなされているが、上流域ではそうになっていない。何とかして欲しいと思う。
←かなりの部分が完成しているが、できる範囲で環境に配慮していきたい（河川管理者）。

○利用-2-1 河川保全利用委員会

- ・淀川等では、占有許可の更新時の条件について具体的に議論しているが、猪名川ではどう扱っているのか。総論だけではなく、「更新期間を3～5年にする」等の具体的な話を並行して進めていかないといけない。
←当面は「河川の利用の在り方」といった全体的な議論をしていくという方針で進めている。
ある程度共通の認識がまとまってくれば、個別の案件についても意見を頂くことができるのではないかと考えている（河川管理者）。

○その他

- 進捗状況「実施A」と「調査・検討c」ばかりが並んでおり、その間がない。これでは、中長期的な戦略が立てられないのではないかと。
←調査・検討中のものが多く、整理をしている段階だ。今後とも取り組んでいきたい（河川管理者）。

4. 一般傍聴者からの意見聴取

- 一般傍聴者からの意見聴取がなされ、2名から発言があった。主な意見は以下の通り。
- ・元委員が「高水敷の切り下げを主張しすぎた」とコメントしていた。「河川管理者は水平に切り下げているので、緩傾斜の切り下げが必要だ。猪名川の利用状況を現状のままで切り下げを進めると淀川のようにになってしまう危険性が高い」ということだった。猪名川の河川利用委員会は丸2年経つが、4回の準備会議が開かれたただけだ。この間にすでに占有許可がおりている箇所もある。占有許可を出す時に河川管理者は「次回の更新は難しいかもしれない」といった話をしたのか。高い理想を持った提言を示しても、実施する河川管理者が住民に対して今後の方向性を説明していかないと新しい川作りが進んでいかない。余裕高が40cmしかない箇所があるにもかかわらず越水対策も進んでいない。実験のめどが立っているのかどうかもわからない。河川管理者には、新しい河川整備計画を実践していこうという意志を求めたい。
- ・なぜ大阪市内で会議を開いたのか。流域住民が参加するためにも猪名川流域で開くべきだ。

以上